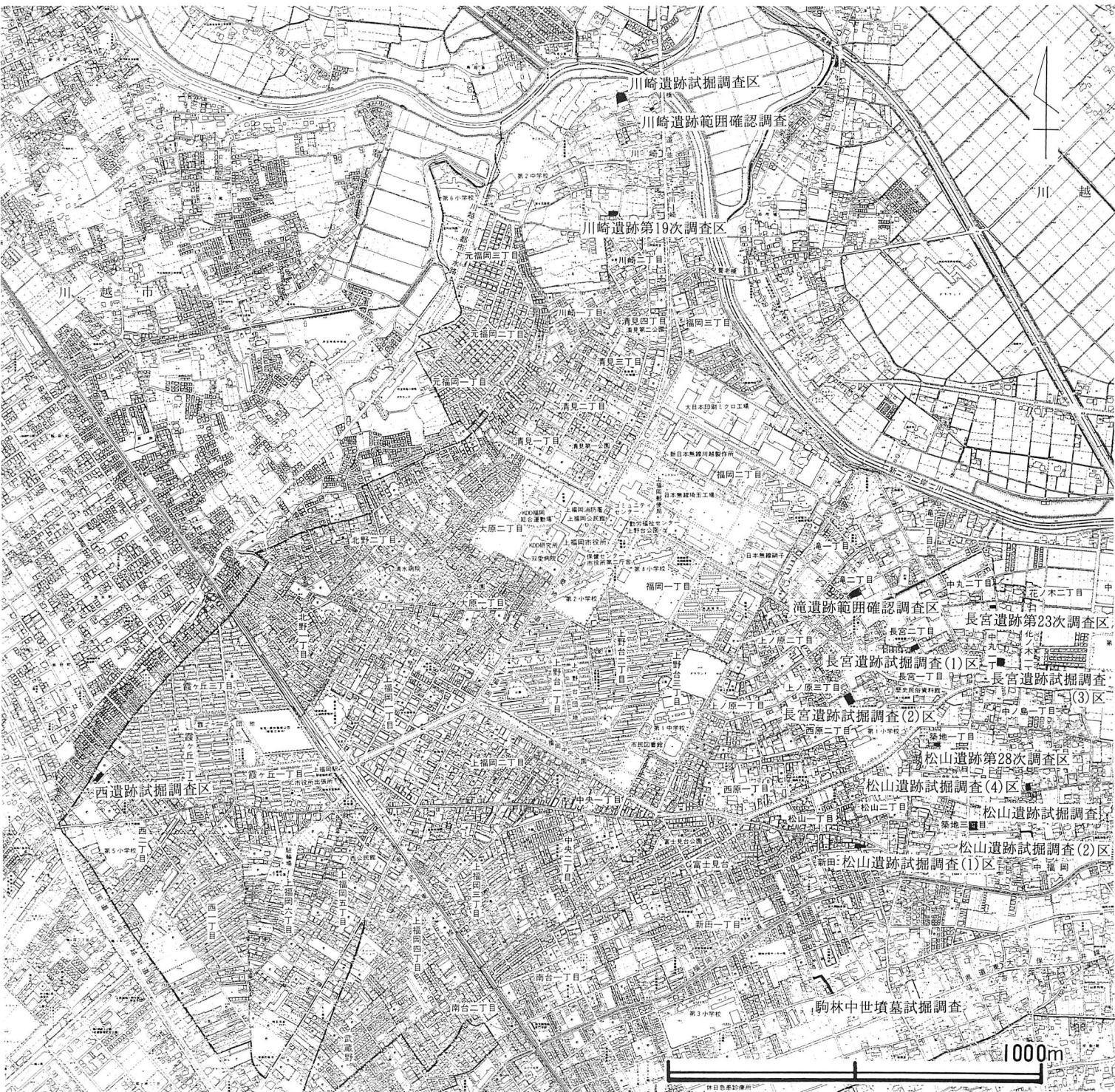
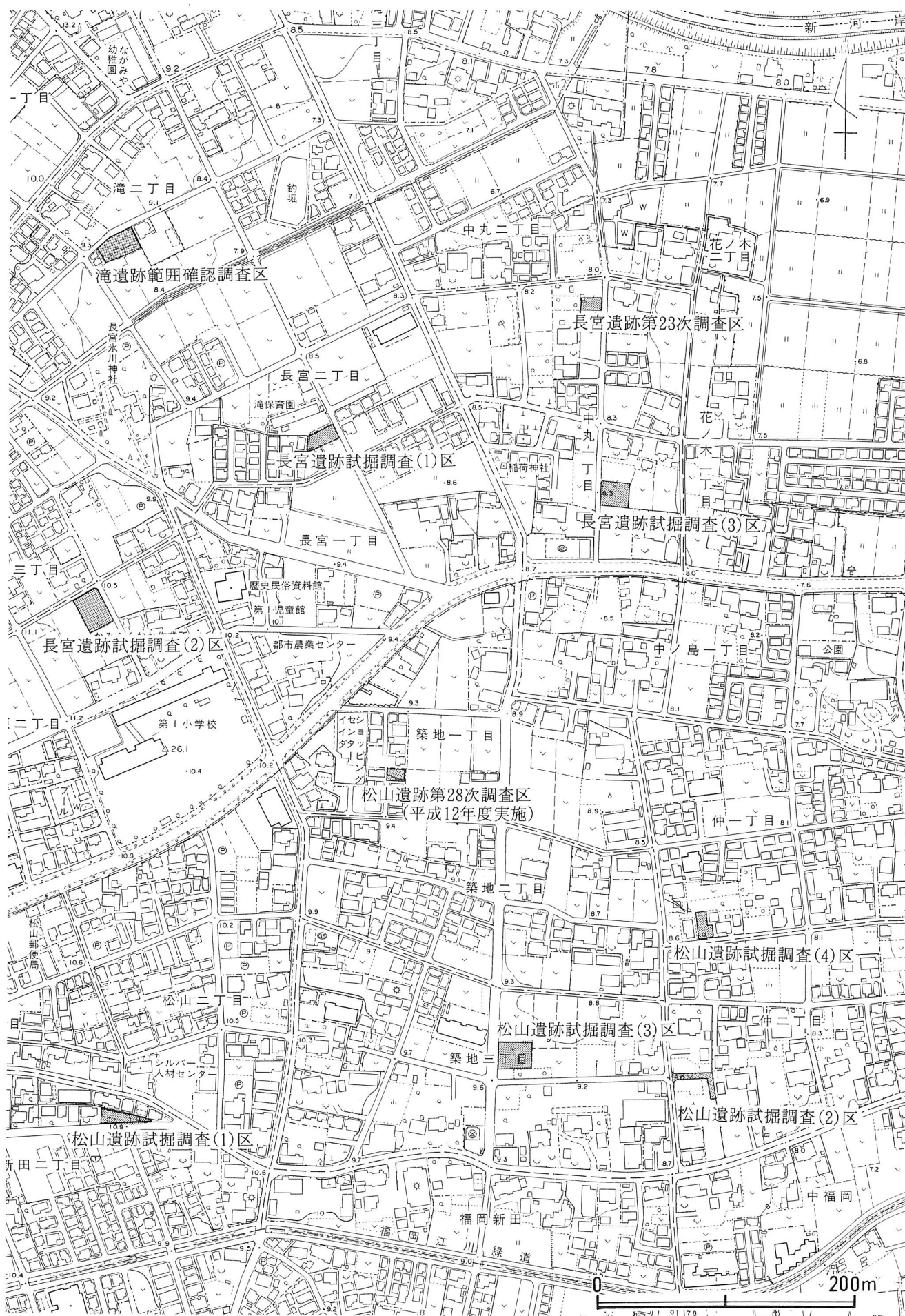




第1図 市内遺跡調査区位置図 (1/15000)



第4図 滝・長宮・松山遺跡調査区位置図 (1/400)

XII 松山遺跡第28次調査の概要

所在地 築地1-1-25
原因 個人住宅の建設
調査面積 154.66m²
調査期間 H13.2.8～21.
調査担当 柳沢健司
出土遺物 土師器破片、須恵器破片
遺構等 竪穴住居跡1軒（奈良時代）



松山遺跡第28次調査 表土除去作業風景（南西より）

調査区は、標高10m弱で、7世紀後葉の第15号住居跡が確認された第20次調査区の南50m、同時期の第22号住居跡の確認された地点の西方100m、8世紀末～9世紀初頭の住居2軒が確認された第19次調査区の東方100mの地点である。

平成13年2月8日、図示したように2mグリッドを設定し、1区おきに表土除去作業を行った。B区列において概ね80cmでローム面に達した。F-2区部分での調査を行なっていると土師器、須恵器の破片を検出し、ローム面まで達する状況とは考えられず、遺構の所在が推察されたのでプラン確認のためF-4区とつながるように拡張作業を開始した。

2月9日、F-4区とつながった時点で遺構の所在が明らかになったので、その取り扱いについて協議し、その結果、本調査を行なうことになったので14日より、再度調査に取りかかり、手をつけていなかったE区列の拡張作業にとりかかった。

15日、精査の結果、一応住居プランが確認できた。覆土除去作業を開始した。16日セクション図を作成し、写真撮影を行なった。19日、ローリングタワーを使用し再び写真撮影を行い、平面図の作成にとりかかった。

20日、平面図の作成を終えるとともに遺物あげレベリングを行なった。床面を精査し、ピットを確認したので、再度平面図を作成した。21日、カマドの調査を行なった。断面図は、攪乱が深かったため満足な作図が困難であったが、平面図の作成を行なうことができた。埋め戻しを行い、当日中に器材を撤収し調査を終了した。本報告は、紙面の都合上次年度以降としたい。



松山遺跡第24号住居跡覆土除去作業風景（北より）



松山遺跡第24号住居跡完掘状況（北西より）



第14図 松山遺跡第28次調査区全測図（1／400）

◆第24号住居跡

東西（正確には、北東＝南西方向）3 m40cm以上、南北（北西＝南東方向）1 m60cm以上の方形の住居跡である。北カマドをもち、主軸方位は、 $N-45^{\circ}-W$ である。北壁を一部後世の土坑に壊されている。周溝は、北壁西側部分が明瞭であり、おそらくカマドを除いて全周するものと推察される。時期は、出土須恵器坏から8世紀中葉であろう。